

# 平成17年度海岸工学委員会（第1回委員会）議事録

日 時： 平成17年6月22日（水） 14:00～17:00

場 所： 土木学会2階 講堂

出席者： 水口委員長、灘岡幹事長、喜岡（新委員長）、佐藤（新幹事長）

青木、池谷、泉宮、磯部、猪股、上野、大山、岡安、木村、窪内、栗山、黒木（代理：片野）、  
後藤、小林、五明、榊山、重松、柴山、島田、清水、鈴木、高木、武若、丹治、中山、橋本、  
畑田、半沢、福濱、藤原（建）、藤原（広）、細見、前野、間瀬（代理：安田）、松見、水谷、  
村上、横木、渡部、熊谷（事務局）。敬称略

## 議事

### 1. 前回委員会議事録の確認

（灘岡幹事長，資料：No.1-1,1-2）

- ・委員の入れ替わりにともない、出席委員の自己紹介がなされた。
- ・前回委員会・幹事会の議事録案が提示され、確認された。修正等あれば幹事長へ連絡する。

No.1-1 平成16年度海岸工学委員会（第2回委員会）議事録（案）

No.1-2 平成16年度海岸工学委員会（第2回幹事会）議事録（案）

### 2. 報告事項

（灘岡幹事長，資料：No.2）

- ・灘岡幹事長より資料に従い、報告された。

### 3. 平成17,18年度 海岸工学委員会委員長の選挙

（灘岡幹事長，資料：No.3-1,3-2,参考「土木学会海岸工学委員会委員長選挙細則」）

- ・灘岡幹事長より説明された「土木学会海岸工学委員会委員長選挙細則」に基づき、委員長選挙が実施された。開票は、水口委員長、熊谷氏（土木学会）が行うこととなった。
- ・定足数は、委員数（48名）の2/3であり、出席者・代理出席者・委任状の合計が定足数を上回ることが確認された。
- ・投票の結果、喜岡委員が新委員長に推薦された。
- ・水口（前）委員長より退任挨拶がなされ、喜岡（新）委員長より「2年間の任期中全力でのぞみたい」旨就任挨拶があった。

### 4. 平成17,18年度 海岸工学委員会構成について

（喜岡委員長）

#### ① 幹事長の指名

喜岡委員長より、佐藤委員が幹事長に指名された。

#### ② 各小委員会委員長の指名

- ・喜岡委員長より、海岸工学論文集編集小委員会委員長に間瀬委員、Coastal Engineering

Journal 編集小委員会委員長に柴山委員、対外連携小委員会委員長に青木委員、広報小委員会委員長に岡安委員が指名された。

- ・津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会委員長に今村委員を、確認の上推薦する。
- ・なお、小委員会の副委員長はそれぞれの委員長推薦の上、喜岡委員長と協議し、次回の幹事会に報告する。

③ 相談役の推挙

平成 13,14 年度委員長を務めた河田元委員が相談役に推挙され、了承された。

5. 海岸工学論文集第 52 巻（第 52 回海岸工学講演会）応募論文審査について

（灘岡前幹事長，資料：No.4）

灘岡前幹事長より、資料に従い報告された。

- ・本年度の応募論文数は 412 件、査読平均点は 18.4 点で昨年度とほぼ同水準。
- ・採択論文は、査読評点合計 18 点（満点 30 点）以上の論文を含め、水口委員長・灘岡幹事長・安田論文編集小委員長が慎重審議して選出した合計 291 編。
- ・応募論文は、漂砂に関するもの、スマトラ沖津波に関するものが多い。

なお、配布された資料 No.4 には採択論文数が記されていないので、結果を記載して差し替えることとされた。

6. 海岸工学論文集出版形態変更についての報告

（佐藤幹事長）

- ・他の委員会の行事出版物と異なり、海岸工学論文集は土木学会の出版物として、体裁・クオリティも高く、その分出版費用も高くなりがちである。そのため、質をできるだけ落とさないで、省力化・電子化により価格を下げる努力がされている。

（灘岡前幹事長）

- ・省力化・電子化を第 52 回より行っている。省力化・電子化で作成費が 1300 万円から 700 万円に縮減できた。販売価格もこれまでの 14000 円を 10000 円以下にしたい。
- ・業界案内は継続するが、業界からの広告費に依存しないで出版するようにしたい。

（重松委員，資料：No.5-1,5-2）

- ・これまで紙媒体により投稿者より提出いただいたが、電子化にともない、完全版下化をにらんだ原稿執筆要項を作成した。参考文献の扱いについてはホームページ参照について追記した。図表については、著者が作成されたものをそのまま使うこととした。

以上の説明に対し、

- ・査読小委員会で形式ばかりを見る傾向にあり、必ずしも内容を見切れていない
- ・要項の内容を見落としがないよう全て守るのは大変
- ・論文の雛型ファイルを OS や文書作成ソフトごとに作ることはできないか

等の意見が出され、

- ・査読の場では論文の品質チェックができるよう議論を行っていききたい
  - ・どこまで電子化・省力化を行っていくかの議論が同時に必要
- との議論がなされた。

7. 第 52 回海岸工学講演会の準備状況について

(この議題は、委員長選挙中の空いた時間を利用して説明された)

(藤原委員，資料：No.6)

藤原委員より、第 52 回海岸工学講演会の準備状況について、資料 No.6 により説明され、了承された。

#### 8. 第 53 回，第 54 回海岸工学講演会（会場などについて）

(村上委員，資料：No.7)

村上委員より、資料 No.7 により宮崎市開催の第 54 回海岸工学講演会の会場として、「ウェルシティ宮崎」に隣接する「中央公民館」について説明された。

なお、第 53 回海岸工学講演会については特に説明されなかった。

#### 9. Coastal Engineering Journal について

(柴山委員，資料：No.8)

・柴山委員より、2004 CEJ Award 推薦論文について、「SAND MOVEMENT AND LONG-TERM BEACH EVOLUTION IN A FLUVIAL SYSTEM COMPOSED OF THE SAMEGAWA RIVER AND THE NAKOSO COAST」を推薦する旨提案され了承された。

・Coastal Engineering Journal について、6 月号と 9 月号の合併号が 9 月に発行される。

・スマトラ津波特集号の発行を予定している。

との説明に関連して佐藤幹事長より、津波特集号の編集にあたっては、広く公募するよう提案がなされるとともに、CEJ の購読数が伸びないことが委員会予算を圧迫しているため、国内での販売促進を検討していく旨、言及された。

#### 10. 研究小委員会，WGなどの活動状況について

##### ① 対外連携小委員会

(青木小委員長，資料：No.9-1)

青木小委員長より、資料に沿って活動状況を説明。今後の活動計画として、「沿環連」の活動に協力していくこと、ジョイントシンポジウムに向けて新たな課題を検討する、安全利用面での活動の充実に向けて委員の公募を行う、安全利用面での海外の実態調査を実施するなどの活動計画が報告された。

##### ② 津波被害推定ならびに軽減技術研究小委員会

(佐藤幹事長，資料：No.9-2)

スマトラ沖地震の発生で、対象範囲が広がり、活動期間が当初の予定より延長されたことが報告された。

##### ③ 広報小委員会

特になし

##### ④ 国際ネットワークWG

(柴山委員)

9 月に韓国で開催される APAC の対応を含め、今後とも進めていきたい。

#### 11. 第 41 回（2005 年）及び第 42 回（2006 年）水工学に関する夏期研修会について

(畑田委員，資料：No.10)

・畑田委員より、資料に沿って第 41 回水工学に関する夏期研修会について報告された。

- ・第 42 回（2006 年）は水工学委員会の担当により中部地区で開催される。第 43 回は海岸工学委員会の担当により西部地区で開催される。

受講者が参加しやすいテーマが議論され、最先端な課題に特化するのではなく大学院レベルの基礎的・一般的な内容を増やすこと、世代間の技術ギャップの解消を図れること、などの意見が出され、幹事会で議論を進めていくこととされた。

## 1 2. 業界案内欄掲載依頼について

（清水委員，資料：No.11）

清水委員より資料に沿って説明された。

- ・厳しい経営環境の折り、広告宣伝費はけずられる方向にあり、10 年前と比較して、前年度の業界案内欄掲載依頼は約 3 割の 51 社である。
- ・第 52 回においては、昨年度と同様、過去 3 年間の掲載企業ならびに論文投稿者（筆頭著者）に業界案内掲載依頼を 8 月発送予定。

業界案内欄掲載については「企業の自由な意思に基づいて、宣伝活動の場を提供すること」が基本方針であることが確認された。

観測機器などの展示について質問があり、新興企業では申し込み方法がわからない場合があるので、ホームページなどで問い合わせ先を紹介し、第 52 回の青森において対応できるかどうか検討することとされた。

## 1 3. その他

（磯部委員，資料：1 2）

磯部委員より資料 1 2 により説明

International Conference on Ecological Modelling が Management of Sustainability and Ecological Modelling をテーマに 2006 年 8 月に山口で開催される。2006 年 2 月がアブストラクト提出期限であるので、奮ってご参加いただきたい旨紹介された。

磯部委員よりあわせて、海岸施設設計便覧（英訳版）が出版されたことが紹介された。

（後藤委員）

後藤委員より、土木学会論文集第 2 部門について、各部門同程度の読者数にかかわらず、論文執筆者数は第 1 部門、第 3 部門と比較しておおむね半分であるので奮って投稿されたい旨述べられた。なお土木学会論文集は、来年より電子化され、自動的にデータベース化され引用率調査の対象となることが紹介された。

（大山委員）

大山委員が、勝井前委員の後任として海洋工学会委員に就任されたことが紹介された。

（佐藤幹事長）

佐藤幹事長より、海岸工学論文集の査読のあり方については、幹事会で議論していくこと、土木学会の委員会は、活動度評価を受けることになっており、海岸工学委員会は A ランクの評価を受けていること、海岸工学委員会の内規について幹事会で議論し、11 月の海岸工学委員会で成案として、土木学

会理事会に諮っていきたいこと、などが紹介された。

最後に、灘岡前幹事長より退任の挨拶と佐藤新幹事長より就任の挨拶が述べられた。